

豊かな人権意識と生きる力を育む 「ぬのしょう、タウン・ワークス」

ぬのせ
松原市立布忍小学校

「ぬのしょう、タウン・ワークス」とは、松原市立布忍小学校が1996年度から実践を始めた総合的な学習の名称です。布忍小学校は、長年にわたって同和教育をはじめとする人権教育を進めてきました。そうした取り組みの積み重ねの中から、地域を学習の場として、子ども達に豊かな人権意識や21世紀を力強く生きる力を育むことをねらいとして生まれたのが「ぬのしょう、タウン・ワークス」です。

子どもたちは、「ぬのしょう、タウン・ワークス」により、福祉・ボランティア、国際理解、進路などの課題を通して、様々な人とのぬくもりのある出会いを体験します。様々な施設へのフィールドワークや仕事体験などの多様な体験活動、地域のお年寄りや障害のある人、いろいろな職業の人、外国の人など様々な人々からの聞き取り・交流が行われます。

学習の舞台は地域 ～人との豊かな出会いを通して～

「ぬのしょう、タウン・ワークス」の舞台は、地域全体だと言っても言い過ぎではありません。子どもたちの活動を温かく受け止め、支えてくれる地域があってこそその取り組みなのです。

1、2年生は、生活科を中心に、「めざせ、あそびのたつじん!」(1年)、「なかま・ちいき」(2年)をテーマとして、地域の様々な人から遊びを教えてもらったり、地域探検でのインタビューなどに挑戦します。

3年生は「福祉・ボランティア」をテーマに、車いす体験や福祉施設への訪問、障害のある人やお



年寄りとの交流を通して人のぬくもりに触れ、4年生は「父母や地域の仕事」をテーマに校区の様々な仕事場の見学や聞き取りとともに仕事体験にも取り組み、仕事の苦労や誇りを学びます。

5年生のテーマは「国際理解」と「自分史」です。この中で子どもたちは、異文化に触れるとともに、かけがえない自分に気づき、仲間と思いを共有するのです。

そして、6年生は、「進路・ゆめ体験」をテーマに、将来就きたい仕事や夢について話し合い、様々な人や職場を訪問し、自分の夢や生き方についての思いをふくらませます。

「子どもは町の宝物」これが布忍小学校を含めた松原第三中学校区の合い言葉です。「ぬのしょう、タウン・ワークス」は、こうした中学校区の教育コミュニティづくりの取り組みに支えられながら、子どもたちの豊かな人権意識と生きる力を温かく育む、学校と地域の協働の取り組みとして、進められています。



人権総合学習の発表会「親子集会」